



新型コロナの発生で、私たち
創意工夫で活動の継続を



くるめりあ六ツ門6階の「みんくる」の壁は、来場者が自由に利用できる黒板が一面あります。疫病を治めるといわれる妖怪「アマビエ」を、子どもたちが色とりどりに描いています

新型コロナが長期化する中、人々の安全で安心して暮らしたいという思いは高まりました。さまざまな工夫で活動を続けることはできます。

つながりたいをサポート

「活動をいつになつたら始めたいのか」、「これまでのやり方を変えて活動したい」など早く活動したいという声が出ています。久留米市は、感染防止を行なうながら活動を続ける方法や、他団体の活動事例を紹介するなど、皆さんの「つながり」を応援しています。

これからも活動を続けられるように、各校区コミュニティセンターの感染防止対策や、ICTを活用した環境づくりを支援。市民活動に取り組む団体には「市民活動・絆づくり推進事業費補助金」を準備しています。今年度からは「フードバンクやフードライブ活動への補助金も新設しました。

コロナを機に続ける工夫を



やり方を覚える
とリモート会議
は簡単ですよ

センター長 翁春仁さん

皆さんの「1歩」を応援します

オンラインで、リモート会議や交流会をしたいけど、やり方やどんな機材が必要か分からず市民活動団体のために「みんくる」がお手伝いします。まずは相談してください。

問 市民活動サポートセンターみんくる
(☎ 0942・30・9067、FAX 0942・30・9068)

【出向いてサポート】

内容現地にスタッフが出向き、開催に向けた研修を行います。オンライン用タブレット、マイク、イヤホン、Wi-Fiの貸し出しもあります **料金無料**

【みんくるスタジオでサポート】

内容初めての利用者でも、オンラインミーティングを開催できるように支援します。みんくるに設置しているオンライン用パソコン、マイク、イヤホン、

次ページで「コロナ禍でも、工夫しながら活動を継続している市民団体の事例を紹介します。

久留米市市民活動サポートセンター
みんくるへ



新型コロナ禍で生まれた 新しい市民活動

会えなくても つながりを絶やさない

新型コロナの発生で、私たちは外出や人との交流、社会活動への参加を控えなければならない生活を強いられました。これからは感染リスクを抑えながらも、人や地域のつながりを維持できる新しい環境づくりが必要です。

問 協働推進課 (☎ 0942・30・9064、FAX 0942・30・9706)



新しい市民活動を始めた皆さん。
自慢のマスクを付けて一言。

当たり前が一瞬で変わる
福岡県に「緊急事態宣言」が発令され、私たちの生活は一変しました。人との交流も、地域での集まりもできない日々に多くの人が不安を抱えました。

世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、市もイベントの中止や公共施設の閉鎖を決定しました。市の施設や校舎コミュニティセンターが閉鎖したこと、これまで行ってきたイベント、健康教室、ボランティア活動、サークル活動なども一斉に中止。地域の皆さんで協力して実施していた清掃活動や防犯パトロールも自粛することになりました。新型コロナで日常は一変。これまでの「当たり前」がそうではなくなりましたことに気付かされました。

コロナでつながりが分断

人との交流や外出する機会が減ることで、高齢者が認知症になったり、介護リスクが高またりすることが懸念されます。



各団体の活動状況を報告する意見交換会を実施しました

コロナで生活が一変

家庭で過ごす時間が増えると同時に、先行きの見えない不安やストレスから、子どもや女性、弱い立場の人への虐待・DVも増加傾向に。周りの人に相談できず、SOSを出しにくくなりました。新型コロナの発生は、私たちの健康や経済に悪影響を及ぼすだけではなく、人や地域のつながりを分断し、社会的な孤立を生み出しました。

